

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

平成 30 年 1 月 30 日  
村山 章

「4年に1度のスポーツの祭典、オリンピック」と以前は言っていました。最近ではオリンピックの後に必ずパラリンピックを付け加えて言うようになりました。私たちは、障害を抱える方も健常者と同じように生きられる社会を目指すようになってきています。一方で長年、福祉施設や精神科病院に入所、入院していた方々を地域社会がどう受け入れるかは大きな課題です。施設や病院で長年暮らすと、地域コミュニティとの接し方が分からなくなってしまう。そのため、社会復帰が可能な状態なのに、病気であるとして精神科に入院させられる方もおられるようです。医学的には在宅での療養ができるのに、引き取り手がいないなど、日常の世話を担う家族側の事情によって病院で生活している「社会的入院」という言葉もあります。私たちは元々、一人では生きられない存在なので、共同体意識を大切に協力し合って生きたいものです。少しでも自分からできることから始めましょう。皆がそれぞれに私利私欲ばかりを考えて行動していたら、世の中に無数に存在する組織は継続できなくなり、奪い合いが横行する殺伐とした社会になるのではないのでしょうか。

「孫は目に入れても痛くない」という諺がありますが、昔の人は上手い表現をしたものと思います。確かに孫の可愛さには神秘的な力さえ感じます。シクラメンが元気一杯に咲き誇っているのを見ることでエネルギーがもらえます。ご飯が炊きあがったとき、全体をかき混ぜて酸素を送ってあげると一粒一粒のお米が喜んでるように感じます。人という生物がここまで進化できたのは、人様の役に立ち、人という生物が発展していくための行動が、幸福感を感じられるように私たちにプログラミングされているからなのではないのでしょうか。人だけではなく全ての生き物が魂を介した波動でつながっているのかもしれない。感謝の気持ちを大切に誠心誠意、精進して生きていきたいと思えます。